

# 自分たちで物語文を読み深める・複式低学年

—第1学年 本とともにだちになろう「ずうっと、ずっと、大すきだよ」と  
第2学年 本はともだち「スーホの白い馬」の実践から—

羽 場 邦 子

## 1 はじめに

本校の複式学級国語科の指導は、「異単元異内容」「見守り型」支援を模索している。また、国語科では、これまで課題解決的な学習を中心に研究を重ねてきた。「課題をもつ→課題解決に向かう→ふりかえる」という学習過程で重視しているのは「学び合い」である。

「異単元異内容」での「学び合い」を成立させるためには、どのような支援が必要なのか。本稿では、物語文を自分たちで読み深めるための支援のあり方を述べる。

## 2 1年・2年の子どもたちが、それぞれ自分たちで学習を進めるために

### (1) 日直がリーダー

1・2年一人ずつ、一日の生活と学習のリーダーとなる。国語では、各学年一人のリーダーで進行する。話し合いでは、発言を聞くことと板書することを一人で行うことは難しいため、他の子どもが助けることもある。「分からないことはリーダーに聞く。リーダーが分からなかったら先生に聞く。」ことで、リーダーの自覚も生まれる。

### (2) 子どもどうして「聞く」「話す」

子どもどうしでの「聞く」「話す」から、「聞き慣れる」「話し慣れる」さらに、「聞きあう」「話しあう」へと高めることができるような日々のくらしづくりを目指している。

### (3) 黒板は子どもたちのもの～書き慣れる～

- 朝の会で「1日のめあて」を短冊黒板に書く。
- 「月 日 曜日」「学習の予定」など、黒板に1・2年生とも書く。
- 1年生の入門期から、学習の中で子どもが書く場を意識して設定する。
- 時間がかかっても、子どもに任せる場を設定する。

### (4) 学習ガイドと短冊黒板・カードの活用

学習ガイドは、子どもたち全員がもつ。「めあて、課題、学習の進め方、ふりかえり」の学習過程を子どもたちに分かるように作成した。短冊黒板やカードで、本文のキーワード、自分の考えなどをあらかじめ書いて提示し、学習を進めることができるようにした。

### (5) 発言の約束

「リレー指名」「順番」などにより「全員発言」を行う。何回発言したのかが分かるように、指で回数を示す。

## 3 教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(1年)と「スーホの白い馬」(2年)―

### (1) 単元について

この二つの作品に共通する点は、主人公が、最も愛する者の死に出会うこと、その死を越えて心を結んでいることである。異なる点は、(1年)エルフは、老衰で死を迎える。「ぼく」は、エルフの死を自然に受け入れ「ともに生きる」ことの意味を問うている。(2年)白馬は、理不尽な殿様の仕打ちにより殺されてしまう。スーホは、馬頭琴を奏でて、白馬を思い、どうにもならない怒りや悲しみを心に抱きながら生きる。1・2年ともに、登場人物に同化する読みではなく、登場人物を対象化して自分の思いを話し、友達の思いと比べながら読み深めることとした。また、日直をリーダーとし、学習を進めていく。

### (2) 研究仮説と単元構成

研究仮説と単元構成を次のようにした。

1 年	2 年
「ぼく」のエルフへの思いを、家族やとなりの子の思いと比べて考えたり、他の動物に広がる思いと関連づけたりすることにより、「ぼく」の思いが、他の誰よりも、どんな思いよりも、強いものであることを明確につかむならば、「ともに生きる」ことの意味を、より豊かに深く理解するであろう。	白馬を殺されるという悲しみや怒りに満ちた結末に至った原因や理由を考えることにより、物語の事柄の本質を理解できるようにする。その際、自分の考えをより明確にするとともに、友達の見解と比較し、より客観的な立場から見直すようにするならば、物語の事柄の本質を、より深く確かに理解するであろう。
子どもたちとともに学習を進めるならば、学習ガイドの使い方を理解し、互いに聞きあい話しあうことができるであろう。	短冊黒板を利用しながら、学習ガイドに沿って学習を進めるならば、子どもたちの力で話し合いを進めることができるであろう。

1年 (全12時間)	2年 (全15時間)
<b>指導目標</b> 1 エルフと過ごした日々を想像して「ぼく」の気持ちを読みとり、「ともに生きる」ことのすばらしさを考えるようにする。 2 読書の楽しさに気づき、読書生活を広げることができるようにする。	<b>指導目標</b> 1 白馬への思いを読みとり、作品のもつ悲しみの深さを読み味わうことができるようにする。 2 自分の考えをもち、友達の見解と比較しながら話し合うことができるようにする。
<b>第一次</b> 全文を読んで課題をつくり、課題解決への見通しをもつ。(3時間) ※1年・2年が、互いの物語文を聞きあい、感想を交流しあう。 ※1年生の課題づくりに2年生も参加して課題をつくる。2年生は、2年生だけで課題をつくる。	<b>第二次</b> スーホの白馬への思いの深さを読みとる。(8時間) ○登場人物の気持ちが分かる言葉に線を引く。 ○短冊黒板にキーワードを書く。 ○課題について話し合う。 ○スーホを、殿様をどう思うか。どうしてそのようなになってしまったのかを話し合う。 ※1年生に学習の進め方をアドバイスする。
<b>第二次</b> エルフへの「ぼく」の思いの深まりを読みとる。(6時間) ○登場人物の様子や気持ちが分かる言葉に線を引く。 ○課題について話し合う。 ○「ぼく」に言ってあげたいことを書く。 ※2年生の学習の進め方を見る。	<b>第三次</b> 学習をふりかえる。(2時間)
<b>第三次</b> 学習をふりかえる。(1時間)	<b>第四次</b> 1年・2年ともに好きな本を紹介しあう。(2時間)
<b>第四次</b> 1年・2年ともに好きな本を紹介しあう。(2時間)	

#### 4 授業の実際「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(1年)と「スーホの白い馬」(2年)

##### (1) 学習ガイドと短冊黒板の活用

本実践では、両学年ともに、同じパターンの学習ガイドを活用した。(次ページに2年の学習ガイドを載せる)1年生は、本実践前まで、ワークシートに学習の進め方を併記していた。

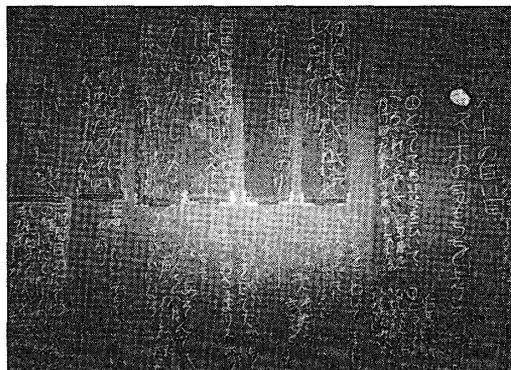
2年は、短冊黒板を使用した。本文のキーワードや課題を書き、話し合いの資料とした。

##### (2) 実践の概要

###### 出会う

題名読みの後、1次感想を書いた。1次感想では、次のような傾向が見られた。

1 年
☆エルフといっしょに、たのしいゆめをみたんだとおもいます。 ☆すきだよといってあげたからよかったんじゃないんですか。 ☆わたしはエルフがしんでかなしかったとおもいます。 ☆とりをかってもうまをかってねこをかってもずうっとずっと大すきだよといってあげましよう



「ぼく」とエルフとの関係で読んでいる。家族やとなりの子についての気づきはなかった。

2年

☆スーホは白馬のことをどう思っているのですか。わたしは、「ぼくのおとうとだよ」と思っているんだと思います。

☆白馬をせっかくそだてたのに、王さまがまずしい人だと思って・・・スーホをけったりたたいたりして・・・ぼくはかわいそうだと思いました。

☆白馬が矢をいっぱいさされた時くやしかったですね。わたしはとてもくやしいので、王さまのところへもう一回言ってやめてくださいと言います。

☆白馬が弓でいころされてしまっかなかしいですね。ぼくは、友だちがみんないなくなったぐらかなかしいです。そのあたりをおさめているとのさまはうそつきです。

☆馬頭琴は、スーホの歌声と同じように遠くにひびいていたと思う。本当に白馬がいてよかった。

( 五月 十五日 金曜日 )

スーホの白馬(五)

「スーホの愛もちをきいて読もう。」

「? どうして、やがさらしても白馬は走りつづけるのでしょ  
う。」

① 今日ば・・・して、スーホの気もちを考えます。  
② 五場面をリレー読みしましょう。どのようなことばにちゅうい  
すればよいでしょう。(白馬がまとめて書いてみましょう。)

③ ??を話し合います。

④ ややいころしてしまえと言ったのさまを、あなたは、どう思  
いますか。おけもいしに話し合います。

⑤ 今日、話し合ったことから、思ったことを書きましよう。

とのさまが白馬におこされた  
けなのびょうぶつこのちを  
とってわたしは、とてもいや  
なきもちです。

白馬への思いや殿様の理不尽さをほとんどの子どもが記述していた。しかし、スーホの境遇や人物像、馬頭琴を奏でるスーホの思いへの気づきは少なかった。1・2年生とも、1次感想に出されなかった事柄をおさえながら、課題づくりを行った。

課題を解決(追究)する

1年 課題解決 話し合いの場面より

【課題① どうしてバスケットをあげたのでしょうか。】

C1 となりの子の方が犬を3匹も飼っているからあげたい。

T どうして、となり子が子犬をあげるといったのですか。

C2 となりの子が、エルフの墓をたてているのを見たから。

T 吹き出しに書いたね。エルフは死んでしまった。かわいそう。あげればいい。って書いていましたね。どうして、もらわなかったの。

C3 エルフのことが1番好きで忘れたくないし、忘れちゃいけないから。

C4 そう。エルフは気にしないけど、ぼくは忘れちゃいけないから。

【課題② どうして、ぼくはなにをかってても「ずうっと大すきだよ」といってあげるのでしょうか。】

C5 エルフにも毎晩言ってあげていたから。何を飼っても・・・

C6 エルフのことも好きだった。忘れたくない。他の動物も好きになってあげたい。いつまでもいつまでも忘れてしまいたくない。

C7 家族の人は言ってあげなかった。だからエルフには分からなかった。

話し合い後の手紙文より

☆手紙文は、話し合いを確かめるように発言したことを書いた子がほとんどだった。なかには、(エルフが年をとっても、よくお世わをがんばりましたね・・・エルフは赤ちゃんのときからとてもかわいかったですね。)(エルフがしんで、さびしくてくやしかったですね。)といった記述もあった。年をとって自然に命がなくなったことを「ぼく」が受け入れたという理解が十分でなかったと考える。

☆課題①は、適切ではなかった。そのため、教師から、2つの発問を行った。

☆ぼくをかわいそうに思って子犬をあげようという隣の子とエルフのことを思っていないというぼくの気持ちの違いに気づかないままだった。

☆エルフへの思いが他の動物へと広がっていることを理解していた。

2年 課題解決 話し合いの場面より

【ミニ課題 どうして、かなしさとくやしさとくやしさでいくばんもねむれなかったのでしょうか。】

C1 殿様に殺されて今まで楽しかったことが全部消えて、殿様に殺されてかわいそうで悲しくて悔しかった。

C2 スーホは、白馬を世界で一番の宝物のようにしてきた殺されて悔しくてたまらない。白馬のことが大好きだったから幾晩も眠れなかった。

☆課題は、子どもの言葉を使った。そのため、子どもの発言が拡散された。子どもから出された課題の整理が不十分だった。「馬頭琴を奏でながらどんなことを

- C 3 白馬にもう一回会いたい。一緒に遊びたいのに・・・。
- C 4 殿様がすごく嫌いで、白馬にもう二度と会えないから・・・。
- 【課題 どうして、馬頭琴をひいて、ころされたくやささや草原を駆け回った楽しさを思い出したのでしょうか。】
- C 5 白馬から馬頭琴を作って、それをひくスーホと白馬の心が一緒にあって悲しかったことや楽しかったことを思い出した。
- C 6 楽器は馬の頭の形をしていて、白馬が背中に乗っているみたい。
- C 7 そんなとき楽器の音は・・・の所で、白馬がすごくいい家族で、その白馬が楽器になったから、聞く人の疲れを忘れたと思う。
- 【どうしてこんなことになったのでしょうか。馬頭琴をひくスーホをあなたはどう思いますか。】
- C 8 殿様が白馬を殺したのはいやだったが、馬頭琴をひくスーホは、人の心を楽にさせてあげる。動物にも人にもやさしい。
- C 9 白馬が言うことを聞かないから弓で殺してしまった。でも、スーホは夢を見て・・・、馬頭琴をひいて人の心を動かしてやさしい。
- C 10 殿様がいじわるでうそをついた。・・・みんな疲れを忘れて白馬がいてよかったと思う。人の気持ちが分かるやさしいスーホ。
- C 11 殿様は自分の思いどおりにして、人を人形のようにあやつって・・・。スーホはただの羊飼いでなくて、すごくやさしくてすごく働き者で、すごくいい人。
- C 12 白馬が生きていたら、殿様がいじわるだから殺されるかもしれない。
- C 13 馬頭琴と白馬がいたらもっといい・・・。

思っていたでしょう」のように気持ちを問かける課題がよかったのではないかと考える。

☆課題の話し合いで27分かかっている。その間に、直接指導に入ることができなかつたため、話し合いが間延びしたと考える。

☆殿様が白馬を矢でい殺した場面、白馬が走って帰ってきた場面では、殿様が許せないと発言した子どもたちだが、本時では、スーホをかわいそうではなく、優しくていい人と発言した。本時でもう一度殿様について振り返る必要があった。

----- 次時に書いた2次感想より -----

(なぜ、とのさまはわがままなのですか。ぼくは生まれた時から王子さまのようにそだてられて大人になってもそのままだったからだと思います。ぼくはいろんな人がえらい人の近くにいたくてとのさまにさからったらころされてしまうから、家来たちもわるいことと知っていてもわるいとのさまのこの言うことを聞いたんだと思います。)

(わたしは、このお話がかなしいお話と分かりました。スーホも白馬もよくがんばったと思います。)(いつまでも、おばあさんとひつじと友だちと馬頭琴を大切にしてください。)

(ぼくが白馬だったらスーホがこんなにやさしかったらいくら弱っててもぼくは生きています。だから、白馬もぼくと同じで生きて我想います。・・・スーホの白い馬を読む前は、こんなかなしいお話かとは思いませんでした。ぼくはこのお話を聞いてかんどりました。)

☆全文を音読した後、書いた。子どもたちは、話の展開をはじめからなぞりながら書き進めていた。各場面での思いがたくさんあったことが分かる。8名のうち7名は、殿様の事を記述していた。殿様には逆らえなかったことを読んでいる。また、上記の話し合いでは、スーホを「優しくていい人」と言っていたが、2次感想では、どうにもならないことがかなしいと書いている。場面ごとに区切って読み進める場合、各場面での学習を関連づけて読み深める手だてが必要である。

☆スーホのことを次のよう記述していた。「スーホはさみしいのに、がまん強い少年だと今日の話し合いで分かりました。スーホはちょうせんしているのだと思います。スーホはしょうぶしているのだと思います。スーホがしごとをやめてしまったらまけると思っています。」「ぼくは、おばあさんをたすけたスーホが一番えらいと思いました。大人よりしごとをがんばっておばあさんもたすけてスーホはすごいと思いました。」スーホと殿様の人物像を比較して読み進めることも有効だと考える。

## 5 考察

前頁「授業の実際」をもとに、研究仮説について考察を行う。

1 年	2 年
【家族やとなりの子の思いと比べて考えたり、他の動物に広がる思いと関連づけたることにより、「ぼく」のエルフへの思いが、	【白馬を殺されるという悲しみや怒りに満ちた結末に至った原因や理由を考えることにより、物語の事柄の本質を理解できたか。そ

<p>他の誰よりも、どんな思いよりも、強いものであることを明確につかみ、「ともに生きる」ことの意味を、より豊かに深く理解することができたか。】</p>	<p>の際、自分の考えをより明確にするとともに、友達の見解と比較し、より客観的な立場から見直すことにより、物語の事柄の本質を、より深く確かに理解することができたか。】</p>
<p>○C5, C6, C7の発言から、子どもたちは、家族と「ぼく」とのエルフへの思いの違いに気づき、エルフへの「ぼく」の強い思いを読んでいた。また、その思いが、他の動物へ広がっているということも理解していたと考える。「ともに生きる」ことを「いつまでも忘れない」と読んでいたと考える。しかし、隣の子との思いの違いには、気づいていなかった。</p> <p>☆老衰で死んだエルフの死を受け入れ、好きだよと言い続けた「ぼく」の思いを理解することは、十分でなかった。「死んでほしくない」という発言は、命に限りがあると考えて発言していたのかどうか、問いかける必要があった。</p> <p>☆自分の思いを発言できるようになった。8名の発言が、同じ内容に終始する傾向がある。広がりのある話し合いになるよう指導する必要がある。</p> <p>○「ぼく」と他の人物との思いを比較して読むことは、有効であった。また、人物を対象化して読むことも、1年生なりに可能であると考え。</p>	<p>☆子どもたちは、殿様が白馬を矢を放った場面、白馬がスーホのそばで死ぬ場面では、殿様は許せないと発言した。また、スーホは白馬を奪われてかわいそう、悲しいと読んだ。しかし、馬頭琴を奏でる場面では、「スーホは優しい、いい人」「馬頭琴を作って白馬といつも一緒にいられてよかった」「白馬で作った馬頭琴だから、聞く人の心を揺り動かす音色だった」と発言した。場面で区切って読み進める時、各場面の読みを関連づけて読み深める手だてが必要である。</p> <p>☆自分の思いをしっかりと発言できるようになった。自分の意見と友達の見解が違うのか、同じなのかを明確にして発言することを指導する必要がある。</p> <p>○「どうしてこんな結末になったのか。殿様を、スーホをどう思うか」を考え話し合うことで、2年生なりに作品の仕組みや人物像をとらえていた。このような読みを継続することにより、物語の事柄の本質を理解し、作品の価値気づき、自分の読みを深めると考える。</p>
<p>【子どもたちとともに学習を進めることにより、学習ガイドの使い方を理解し、互いに聞きあい話しあうことができたか。】</p>	<p>【短冊黒板を利用しながら、学習ガイドに沿って学習を進めることにより、子どもたちの力で話し合いを進めることができたか。】</p>
<p>○本単元で、学習ガイドによる学習の進め方を理解することができたと考える。</p> <p>☆2年生の話し合いの仕方を何度も見ることや自分たちでどのような話し合いの仕方がよいかを考えあうことにより、日直の進め方、友だちの発言を待つ、認めることの大切さを学ぶ必要がある。</p>	<p>○短冊黒板に本文のキーワードを書き込み、学習ガイドに沿って、自分たちの力で話し合いを進めることができた。</p> <p>○互いの発言を聞きあい、板書することも2年生なりにできるようになった。</p> <p>☆課題の吟味、課題を焦点化して話し合うことが、今後の検討課題である。</p>

## 6 おわりに

本単元の学習後「たぬきの糸車」と「かさこじぞう」を学習した。「ぼくらから見たら、かさこや手ぬぐいをあげるのはすごい。でも、じいさまとばあさまにとっては、当たり前のこと。じぞうさまは、自分たちを守ってくれる神様だから。」「じいさまは、じぞうさまがお礼をしてくれるなんて思っていなかった。せっかくのお正月を楽しくするためにまねごとをした。知恵のある人。」「ばあさまも優しく仲よしのがいい。」物語を読み、自分の生き方を振り返ることができるようにと考える。2学年を同時に指導することは、「自ら学ぶ」ことに直結する。日々のくらしを重ねて、両学年のかかわりを大切に指導したい。